

資料3 刀銘 濃州関住兼定作 刃長62.3糎 反り1.97糎

鎬造り、庵棟、鎬のやや高い片手打ちの打刀姿。

鍛 板目肌よくつみ、総体に流れて柁がかり、乱れた映りが鮮明に立つ。

刃文 小互の目に小丁子、尖り刃を交えてややこづみ、刃淵沸づき、葉、足が盛んに入り、微細な砂流しと金筋が掛かる。

帽子 表裏とも尖り互の目を一つ置き、表は先小丸に返り地蔵風、裏は一段と沸づいて先尖り、ともに返りは深い。

